入学試験問題

地理歴史

前

(配点 120 点)

平成 24 年 2 月 26 日　　9 時 30 分—12 時

注意事項

1 試験開始の合図があるまで，この問題冊子を開いてはいけません。

2 この問題冊子は全部で 39 ページあります(本文は日本史 4 問 4 ～13 ページ，世界史 3 問 14～21 ページ，地理 3 問 22～39 ページ)。
落丁，乱丁または印刷不鮮明の箇所があったら，手を挙げて監督者に知らせなさい。

3 日本史，世界史，地理のうちから，あらかじめ届け出た 2 科目について解答しなさい。

4 解答には，必ず黒色鉛筆(または黒色シャープペンシル)を使用しなさい。

5 解答は，1 科目につき 1 枚の解答用紙を使用しなさい。

6 **解答用紙の指定欄に，受験番号(表面 2 箇所，裏面 1 箇所)，科類，氏名を記入しなさい。指定欄以外にこれらを記入してはいけません。**

7 **解答は，必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。**

8 解答用紙表面上方の指定された(　　)内に，その用紙で解答する科目名を記入しなさい。

9 解答用紙表面の上部にある切り取り欄のうち，その用紙で解答する科目の分を 1 箇所だけ正しく切り取りなさい。

10 **解答用紙の解答欄に，関係のない文字，記号，符号などを記入してはいけません。また，解答用紙の欄外の余白には，何も書いてはいけません。**

11 この問題冊子の余白は，草稿用に使用してもよいが，どのページも切り離してはいけません。

12 解答用紙は，持ち帰ってはいけません。

13 試験終了後，問題冊子は持ち帰りなさい。

◇M5(481—70)

日　本　史

第 1 問

次の(1)～(4)の文章を読んで，下記の設問に答えなさい。解答は，解答用紙(イ)の欄に記入しなさい。

(1)　740 年，大宰少弐藤原広嗣が反乱を起こし，豊前・筑前国境の板櫃(いたひつ)河をはさんで，政府軍約 6,000 人と広嗣軍約 10,000 人が戦った。両軍の主力は，すでに確立していた軍団制・兵士制のシステムを利用して動員された兵力であった。

(2)　780 年の伊治呰麻呂による多賀城襲撃の後，30 年以上にわたって政府と蝦夷との間で戦争があいついだ。政府は，坂東諸国などから大規模な兵力をしばしば動員し，陸奥・出羽に派遣した。

(3)　783 年，政府は坂東諸国に対し，有位者の子，郡司の子弟などから国ごとに軍士 500～1,000 人を選抜して訓練するように命じ，軍事動員に備える体制をとらせた。一方で 792 年，陸奥・出羽・佐渡と西海道諸国を除いて軍団・兵士を廃止した。

(4)　939 年，平将門は常陸・下野・上野の国府を襲撃し，坂東諸国の大半を制圧した。平貞盛・藤原秀郷らは，政府からの命令に応じて自らの兵力を率いて将門と合戦し，これを倒した。

設　問

8 世紀から 10 世紀前半に，政府が動員する軍事力の構成や性格はどのように変化したか。6 行以内で説明しなさい。

第 2 問

院政期から鎌倉時代にかけての仏教の動向にかかわる次の(1)～(5)の文章を読んで，下記の設問A・Bに答えなさい。解答は，解答用紙(ロ)の欄に，設問ごとに改行し，設問の記号を付して記入しなさい。

(1) 院政期の天皇家は精力的に造寺・造仏を行った。白河天皇による法勝寺をはじめとして，大規模な寺院が次々と建立された。

(2) 平氏の焼き討ちにより奈良の寺々は大きな打撃をこうむった。勧進上人重源は各地をまわって信仰を勧め，寄付や支援を募り，東大寺の再興を成し遂げた。

(3) 鎌倉幕府の御家人熊谷直実は，法然が「罪の軽重は関係ない。念仏を唱えさえすれば往生できるのだ」と説くのを聞き，「手足を切り，命をも捨てなければ救われないと思っておりましたのに，念仏を唱えるだけで往生できるとはありがたい」と感激して帰依した。

(4) 1205 年，興福寺は法然の教えを禁じるように求める上奏文を朝廷に提出した。このような攻撃の影響で，1207 年に法然は土佐国に流され，弟子の親鸞も越後国に流された。

(5) 1262 年，奈良西大寺の叡尊は，北条氏の招きによって鎌倉に下向し，多くの人々に授戒した。彼はまた，京都南郊の宇治橋の修造を発願し，1286 年に完成させた。

設　問

A　(1)と(2)では，寺院の造営の方法に，理念のうえで大きな相違がある。それはどのようなものか。2行以内で述べなさい。

B　鎌倉時代におこった法然や親鸞の教えは，どのような特徴を持っていたか，また，それに対応して旧仏教側はどのような活動を展開したか。4行以内で述べなさい。

第 3 問

次の(1)〜(4)の文章は，江戸時代半ば以降における農村の休日について記したものである。これらを読んで，下記の設問A・Bに答えなさい。解答は，解答用紙(ハ)の欄に，設問ごとに改行し，設問の記号を付して記入しなさい。

(1) 村の定書をみると，「休日(やすみび)」「遊日(あそびび)」と称して，正月・盆・五節句や諸神社の祭礼，田植え・稲刈り明けのほか，多くの休日が定められている。その数は，村や地域によって様々だが，年間 30〜60 日ほどである。

(2) 百姓の日記によれば，村の休日以外にそれぞれの家で休むこともあるが，村で定められた休日はおおむね守っている。休日には，平日よりも贅沢な食事や酒，花火などを楽しんだほか，禁じられている博打(ばくち)に興じる者もいた。

(3) ある村の名主の日記によると，若者が大勢で頻繁に押しかけてきて，臨時の休日を願い出ている。名主は，村役人の寄合を開き，それを拒んだり認めたりしている。当時の若者は，惣代や世話人を立て，強固な集団を作っており，若者組とよばれた。

(4) 若者組の会計帳簿をみると，支出の大半は祭礼関係であり，飲食費のほか，芝居の稽古をつけてくれた隣町の師匠へ謝礼を払ったり，近隣の村々での芝居・相撲興行に際して「花代(はなだい)」(祝い金)を出したりしている。

設　問

A　当時，村ごとに休日を定めたのはなぜか。村の性格や百姓・若者組のあり方に即して，3行以内で述べなさい。

B　幕府や藩は，18 世紀末になると，村人の「遊び」をより厳しく規制しようとした。それは，なにを危惧したのか。農村社会の変化を念頭において，2行以内で述べなさい。

第 4 問

次の表は，日本の敗戦から 1976 年末までの，中国およびソ連からの日本人の復員・引揚者数をまとめたものである。この表を参考に，下の(1)・(2)の文章を読んで，下記の設問A・Bに答えなさい。解答は，解答用紙(ニ)の欄に，設問ごとに改行し，設問の記号を付して記入しなさい。

地　域	軍人・軍属	一般邦人
中国東北地方	52,833 人	1,218,646 人
東北地方以外の中国と香港	1,058,745 人	496,016 人
ソ連(旧日本帝国領を除く)	453,787 人	19,155 人

(1) 第二次世界大戦の終結ののち，日本の占領地や植民地などにいた日本人軍人・軍属の復員とそれ以外の一般邦人の引揚げが始まった。多くの日本人は終戦の翌年までに帰還したが，中国とソ連からの帰還は長期化した。

(2) ソ連政府は 1950 年に「日本人捕虜の送還を完了した」と宣言し，日本人の送還を中断した。その後，日ソ両国の赤十字社の交渉を通じて 1953 年から帰還が再開されたが，日本側の要望通りには進展しなかった。ほとんどの日本人の帰還が実現したのは 1956 年のことであった。

設　問

A　表に見るように多数の一般邦人が，中国に在住するようになっていたのはなぜか。20 世紀初頭以降の歴史的背景を，4 行以内で説明しなさい。

B　ソ連からの日本人の帰還が，(2)のような経過をたどった理由を，当時の国際社会の状況に着目して，2 行以内で説明しなさい。